

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	100.0	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	87.5	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	100.0	92.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎どの項目においても全国平均を超えていた。

◎授業中には自主的に課題解決や既習を活用しようとする意欲がある。

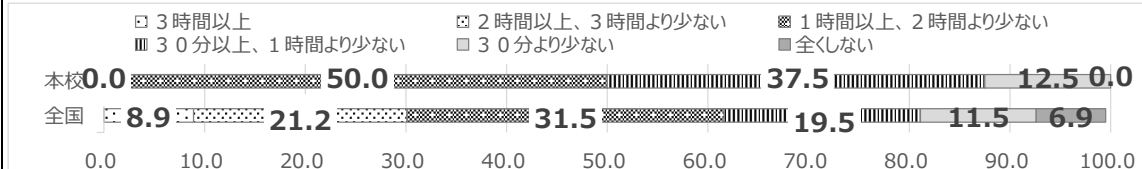
●家庭などの授業以外の場面において、自分の課題を把握し、その克服に向けて粘り強く取り組もうとする意欲とその実践に欠ける。

●全国平均では30％となっている2、3時間以上の学習時間を確保する生徒は本校には皆無である。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	87.5	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	87.5	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	100.0	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	50.0	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	87.5	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100.0	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎自己肯定感がとても高い。

◎現在の自身と身の回りに関する質問（8,15,21）の肯定的回答は高い。

●将来の自身と身の回りに関する質問（10、14,33）に関しては全国平均より低い。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	87.5	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	62.5	72.3

●「将来の夢や目標を持っている」や「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」は全国平均を大きく下回っている。

調査結果を受けて

【学校では】

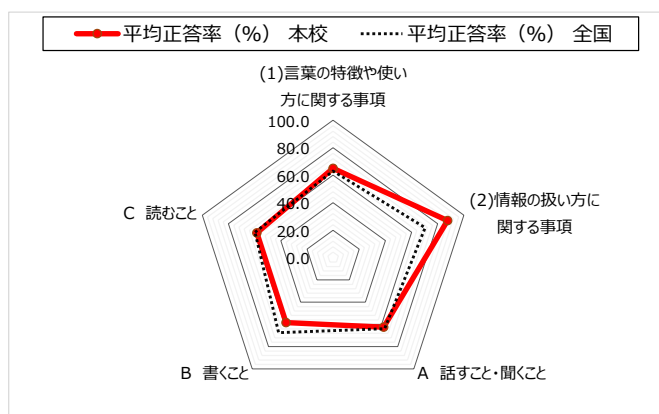
- 家庭学習など授業以外の学習時間を確保することは、学習内容の定着のためにも大切です。定期テスト等の前は、学習計画表を作成し、計画的に学習に取り組むようにします。また、家庭学習の意味を生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。
- 学級活動やキャリア教育の時間に、学校生活や将来に対して前向きな姿勢を育み、学習の必要性を伝えます。テスト前にはガイダンスを丁寧に行うなど、家庭学習に前向きに取り組めるようにします。
- 個に応じた出番・役割を設定し、生徒の頑張りや成果を承認しながら、自己肯定感や自己有用感をさらに高めていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習習慣の確立は、極めて大切なことです。規則正しい生活は、今できていることを今後も継続してほしいと思います。そして、何より家庭学習の時間を確保していただきたいと思います。自分で決めさせて、毎日の学習が習慣となるように励ましてください。少しでも学習の成果が出たときを逃さず褒めることでさらに意欲が高まります。
- 会話の中で、「将来何になりたいか」「どのような職業に興味があるのか」など、お子様の願いや考えをじっくり聞いたり話し合ったりする機会を増やしていただけたらと思います。また、子どもたちが自身の将来のビジョンを描くためには、知的好奇心を刺激したり、体験活動の場面を持ったり、憧れるような大人と出会ったり、話し合ったりする必要があります。そのような機会がもてるようご家庭でも工夫いただければ幸いです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	65.0	63.0
	(2)情報の扱いに関する事項	87.5	70.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	62.5	63.9
	B 書くこと	58.3	67.4
	C 読むこと	58.3	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	72.2	72.7
短答式	54.2	55.8
記述式	45.8	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「情報の扱いに関する事項」は全国平均を大きく上回り、おおむね力がついている。

●「書くこと」について課題がみられる。今後、書く力を身につけることができるよう、指導していく必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
大問2-1	目的や場面に応じて集めた材料を整理し、伝えあう内容を検討することができる。	87.5	68.5
大問2-3	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使うことができる。	87.5	70.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
大問3-3	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができる。	37.5	65.0
大問4-2	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができる。	25.0	35.2

調査結果を受けて

【学校では】

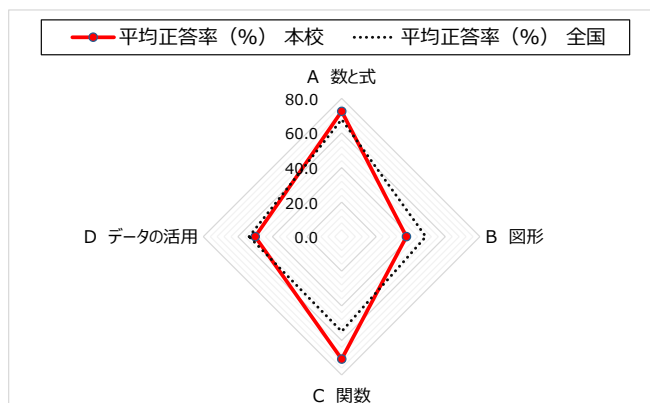
- 同じ内容で展開の異なる文章を複数用意し、読み比べをする活動を行います。
- 語彙テストを定例化し、基本の徹底を図ります。
- テストで設問の意図するところに、線を引くなどの指導をします。

【ご家庭では】

- 語彙や表現を豊かにするためにも、読書活動を通して様々な文種の文章に触れさせてください。
- わからない言葉や表現を辞書で調べることを習慣づけるよう、声掛けをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	72.5	67.8
B 図形	37.5	48.7
C 関数	70.8	54.8
D データの活用	50.0	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	50.0	59.3
短答式	69.4	64.2
記述式	37.5	39.1

結果 ※◎（強み）、●課題

◎「数と式」「関数」領域において、全国平均正答率を上回る結果であった。資料から必要な情報を読み取り、自分なりの考えを形成することができていた。

●問題で求められている条件や必要な要素を十分に捉えられておらず、根拠や比較の観点をもれなく記述することに課題がみられた。設問の意図を正確に読み取り、必要な情報を整理して、論理的に表現する力を育成する必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7 (1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかを見る。	100.0	75.2
7 (2)	数学的に表現したことを事実に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る。	75.0	33.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
8 (2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかを見る。	12.5	46.1
9 (3)	データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかを見る。	12.5	31.9

調査結果を受けて

【学校では】

○グループでの話し合いや発表、レポート作成等の多様な活動を取り入れることで、自分の考えを式や言葉で論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

○授業プリントやワークなど、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

○お子さまのワークやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。

○既習内容を確実に積み重ねるために、授業後は必ず復習を行い、問題を繰り返し解いたり、計算力をつけたり、日々の努力を継続させてください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	511
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.1 / 2	3 / 5	0.8 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題番号	技能	出題の趣旨
1	聞くこと	日常的な話題について目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。
15 (2) a	話すこと [やり取り]	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。

《課題が見られた問題》

問題番号	技能	出題の趣旨
9	読むこと	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができる。
18	話すこと [発表]	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを見る。

結果 ※○（強み）、●課題

◎ 3 技能の調査において、全国平均値を超えていることから、基礎的な知識が身についている。瞬発力が必要とされる話すことの調査においても、全国平均値を超えていることから、知識を引き出すスピードの高さがうかがえる。

● しかしながら、経験からくる問題形式への慣れを原因として、問題を解く前提条件である問題文を読み飛ばすことやさまざまな目的・場面・状況においての情報の理解と整理の不十分さも見られ、それに対応する反応の正確性に欠ける。

調査結果を受けて

【学校では】

- 問題は何を求めているのか、条件の確認をする指導を行います。また、目的・場面・状況等の綿密な設定を行い、さまざまな条件下でコミュニケーション活動を行えるよう、指導や単元構成の工夫をします。
- 知識をアウトプットするための土台作りとして、素早く知識を引き出すことや自在に知識を操作することができるよう基礎基本の徹底、学習法の指導を行います。

【ご家庭では】

- 何気ない会話の中に「あいづち」だけではなく、「何」「なぜ」「どうやって」「だれ」「どこ」「いつ」などの疑問詞を用いた質問を積極的にお子様に投げかけてみてください。特に「何」「なぜ」「どうやって」の疑問詞は会話を活性化し、親子のコミュニケーションと相互理解の良い機会となります。
- 語学の学習は短期間で簡単に成果が出るものではありません。焦らず見守り、少しずつスキルアップする姿を期待してほしいと思います。毎日短時間でも聞いたり読んだり書いたりして英語に触れることが上達のカギです。